

DK ダイヤかながわ交流会

ニ ュ ー ス 第42号

代表辞任にあたって

岡田 雅韶



二年間の任期が終わり代表を交代することになりました。この間会員の皆様、とりわけ運営委員の皆様から頂いたご支持、ご協力に対して深く感謝申し上げます。これから望月湛氏に代表をお願いすることになります。望月さんは運営委員歴も長く、しかもその間 DAA で運営委員、また委員長として DAA の機構整備に卓越した指導力を発揮されたことは記憶に新しい所であります。その望月さんにダイヤかながわ交流会の代表を引き受けて頂いて感謝この上もありません。会員の皆様には新代表に対して倍旧のご支持、ご協力を賜わらんことをお願いする次第です。

ダイヤかながわ交流会は親睦団体です。長い会社員生活を終え、体力、気力、知力もまだまだ充実したまま定年後の長い生活を送ろうとする時、時間は十分にあって人生最後のこのいわば黄金期をどう過ごすかは人様々でしょうが、より広い交友関係を求めて自分に相応しいと思える紳士・淑女の集まりに入り新しい知己を得たいとは多くの人達が秘かに望む所だと思えます。この皆の望みに応えるべくダイヤかながわ交流会はスタートしたのでした。

スタート以来「交流会」は期待通りの親睦の場となっていると思います。総会、定例会にお招きする招待講師の顔触れは担当委員の努力と会員の協力により毎回豪華なものになっています。また「歩こう会」、「社会見学の会」は幹事さんの人を得て毎回多くの人達の楽しみの場となっていますし、各種同好会も好評です。「ダイヤかながわ交流会ニュース」は会員内のパソコンの普及に伴い電子版と変わることによって編集の自由度は飛躍的に増大し、部外でも大変評判の良いものとなりました。このような「ダイヤかながわ交流会」をさらに良質のものとして持続させるためには新しい人、それもいい人、に会員になって頂くよりありません。幸いこの二年間に沢山のいい人達に入ってもらいました。いい会員がいますと連鎖的にいい人が入って来ます。今後ともいい人の連鎖を絶やさないよう皆様には心掛けて頂きたくお願い申し上げます。

親睦団体とは言え「交流会」は社会貢献の面でも顕著な実績を積み重ねて来ました。早い時期に発足した「百寿の会」は NPO 法人「暮らしいきいきサポートの会」を独立させています。そして今回は「こどもの科学・暮らしの教室」が昨 4 月 NPO 法人「かながわ子ども教室」として独立ス

スタートしました。独立したとは言え申し合わせにより当交流会代表が新 NPO の理事長に就任することになっていますので、新 NPO 活動は実際上当交流会活動の一環に他なりません。「かながわ子ども教室」は昨年度には教室、フェスタを合せて 140 回開催の実績を挙げました。そして今や各地の小学校、学童保育等の各所でなくてはならない存在になっています。この社会的信用と実績を踏まえて、当面の目標である「子ども教室」の全国展開を是非とも実現させていきたいものです。

最後に改めて皆様のご協力にお礼申し上げます。これからも皆で力を合せて、ダイヤかながわ交流会がますます楽しい且つ上質な親睦の場になるよう祈念して已みません。

以上

四国・土佐安芸市

「岩崎弥太郎生家」訪問記

新谷 昌隆



この度、私の故郷は下関にて家内の関係での法事が営まれることになった。法事開催は事前に関催計画があることとて、これに便乗し旅の計画を立てた。行先は、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放映で毎週お目にかかる三菱グループ創始者の岩崎弥太郎の生家のある高知県安芸市です。このドラマ設定は、そもそも、岩崎弥太郎を主人公としたと聞き及んでおりましたが、やはり一般的には「坂本龍馬」をテーマとした方がよいと判断したことで「龍馬伝」となるのは当然のことです。今回の大河ドラマには「岩崎弥太郎」の出番が多いともなれば、私などテレビに釘づけになります。また、岩崎弥太郎伝ともなれば弥太郎の直系である「岩崎寛弥さん」という身近な方がいただけに一度は岩崎家の出身地を訪れたい気持ちは強くなった。

昨今、龍馬伝に関し、坂本龍馬、岩崎弥太郎に関する本が本屋の店先にはあふれるほど積み重ねられている。私が所属しておりますダイヤかながわ交流会の友人からも「岩崎弥太郎物語・三菱を築いたサムライたち（成田誠一著）」をご紹介頂いた。現在、関係図書を読むにつれ岩崎家の家系は知ることが多くなりましたが、「岩崎寛弥さん」を知る機会はありません。

今回、岩崎家のルーツである土佐安芸市訪問に当たり「寛弥さん」を意識しています。これからは「寛弥さん」と呼びます。寛弥さんは私より3歳年上の方です。そんなに親しい間柄ではございませんが、私が現役時代勤めた「情報開発室」という変な職場を創設された方です。寛弥さんはその後、他の部署へご栄転後も時々私たちの職場にお見えになり痛飲したものです。

寛弥さんは、小学校時代、東海道線の国府津駅の側にある「国府津館」に疎開されておられたこともあり非常にこの国府津館を懐かしく思われたのか、年一度はこの宿を訪れ、夜を明かして飲んだものです。とにかく、お酒は強い方です。岩崎家の家系でしょうか。若いころの寛弥さんを存じあげている方も相当豪快な人であつたと申しております。お互い銀行を卒業してからも「岩崎寛弥

さんを囲む会」と称し、毎年赤坂で会合を持っておりましたが、私もこの囲む会65人の一員に加えさせて頂いたことは光栄に思う次第でした。

さて、ここで岩崎家の家系を見ますと
創業者・初代社長「岩崎弥太郎」→「岩崎久弥（三代目・社長・嫡男）→「岩崎彦弥太」→
「岩崎寛弥」

「岩崎弥之助（二代目・社長・弥太郎の弟）→「岩崎小弥太・四代目社長」
という家系になります。

岩崎寛弥さんは、昭和21年の三菱本社解散時は、まだ中学生のころではなかったでしょうか。三菱銀行に入社され特別扱いはなかった銀行生活であったと思います。ご本人は平成21年7月にご逝去されましたが、銀行退職後、皆さんへのご無沙汰を気にされたのか平成21年7月に「日ごろのご無沙汰をお詫びかたがた、皆さんにお目にかかりたい」という案内を出されました。開催日は7月17日、開催場所パレスホテルということでしたが、当日本人は体調不良か欠席されました。皆さん不思議だと思われる翌週の7月23日ご逝去されました。享年78歳でした。

新聞には「元三菱銀行（現三菱東京UFG銀行）取締役・三菱グループ創業者岩崎弥太郎の子孫」と報道されました。また、退職後の社長を勤められた東山農事（株）からは「旧三菱銀行情報開発室・取締役」として案内がありました。自分が創設した情報開発室の印象が強かったのではないかと思います。葬儀は小田急線・代々木上原「雲照寺」で行われました。

寛弥さんが東山農事の社長を勤められたのは、祖父に当たる、久弥さんが三菱ではなく岩崎家の事業という位置づけだった小岩井農場で多くの時間を過ごすようになり、農牧は久弥の趣味と生きがいの世界といわれており、これが東山農事の社長を勤められたことと関係があるように思われます。昨今、岩崎家の代々の顔写真が報道されますが、寛弥さんに「ひげ」をつければ弥太郎さんにそっくりです。

ということがあり、土佐安芸市にある岩崎弥太郎生家を訪ねる気になった。さて、常々、思うのですが歴史大好きな私にとって昔の人はよく東京まで歩いたものだと思います。今回も訪ねるに当たり現在の乗り物での所要時間から判断するにどの程度の日数がかかったのか計算方式があれば計算したいものです。この度はJRを利用しました。飛行機であれば羽田から高知龍馬空港です。

- ・ 新横浜：7時22分～岡山着：11時17分（新幹線）
のりかえ
- ・ 岡山発：12時05分～後免着：14時35分（土讃線）
のりかえ
後免発：14時43分～安芸着：15時19分（土佐くろしお鉄道）

順調に走って「8時間」です。昔の人はこのルートを歩いたわけですが、さて何日かかったでしょうか。

目下、放映中の「龍馬伝」の影響は大きい。龍馬ブームが日本列島を縦断していると判断し観光客を引き寄せようと主な龍馬のゆかりの地はPRに懸命です。幕末の英雄の足跡をめぐる、その土地の熱い思いも伝わってくる。土佐安芸市も同様にPRを行っている。

私の故郷、下関においても「龍馬のあしあと・下関の坂本龍馬」と題しPRを行っております。龍馬は下関へは10回訪れております。目立った記録は数多くありますが、私が知らなかった事実で、愛妻お龍さんとある夜、こっそり巖流島に渡り一緒に花火を上げたという記録を拝見し、はじめて知る歴史の事実です。

安芸市に着いた。土佐くろしお鉄道・安芸駅です。駅前から「岩崎弥太郎の生誕地」のぼり旗一色です。先ずは、岩崎弥太郎生家訪問が第一の目標です。駅から徒歩で30分くらいです。周辺は静かな田園風景が見られます。この地は「なす」の生産地として有名です。当然ですが宿での夕食には「なす料理」が加えられます。

岩崎弥太郎の生い立ち等については、あふれるほどの資料がありますので省略しますが、岩崎寛弥さんが知りえた祖父に当たる岩崎久弥さんまでが、ここ安芸で育てております。生家は中農でしょうか。あまり広くはありませんが、母屋に比べ土蔵が以外と大きいのが特徴です。土蔵には三菱マークの原形である「三階菱」が目立ちます。

また、こじんまりした庭には弥太郎が少年時代、将来雄飛することを夢見てこの石を日本列島に模して置かれています。これも意識して見ませんと日本列島には見えません。この石は生家の裏山は妙見山から弥太郎が持ち帰ったとのこと。この山には弥太郎が念願を祈った、こじんまりした星神社があります。頂上まで約1時間かかるそうです。この頂上からは、大きく開けた太平洋が見えますのは、弥太郎に夢を抱かせた要因ではないでしょうか。現在、生家の周辺は大型バスが数台駐車可能な駐車場が確保されており、相当な観光客が来ることを予定しています。



また、地元の方のお話ですと、三菱グループの関係者らしき方が多く、お見えになるとも話しておられました。この地の昔の名前は「安芸郡井ノ口村一ノ宮」と呼ばれています。

次は安芸歴史民俗資料館訪問です。岩崎弥太郎一色です。現在、「岩崎弥太郎にゆかりのあるひと展」が開催されており、家内が最初に見つけた方は「澤田美喜さん」です。女性の立場で一番目についたのでしょう。

私たちが訪問したこの頃、日経新聞記事に小さく「岩崎弥太郎を思う母のやさしさ」と題して掲載されておりました。記事の内容は「三菱財閥創始者・岩崎弥太郎の母・美和が小銭をためていたとみられる、「つぼ」が弥太郎の生家に近い安芸市の民家で見つかり資料館で公開されている」というものです。当資料館の影山学芸員によると弥太郎のためにコツコツとへそくりしていたのでは

ないか。美和の堅実さを裏付ける資料という記事です。つぼをはじめ寛永通宝177枚がひもで結ばれて展示されています。なお、この資料館の方は昨年、弥太郎の直系に当たる「岩崎寛弥さん」が昨年他界されたことをご存知でした。

更に、足をのばしますと、整備された「武家屋敷」「安芸城跡」「野良時計」などを見ることが出来ます。また、駅から近いところには「岩崎弥太郎銅像」が右手を大きく広げた姿として立っています。この銅像がPRの目玉のようです。

私たちが宿をとったのは駅から比較的近い「HOTEL TAMA I」です。食事はホテルの11階にある太平洋が見渡せる階です。弥太郎もこの太平洋を眺めて育ったのです。この海は「水泳禁止」とのことです。先般のチリ地震による津波についてホテルの方にお聞きしましたところ、地形の関係か、津波の影響はなかったとのことですが、地元の消防自動車は注意を促すために、サイレンを鳴らしながら走っていたとのことでした。

隣の駅は「安芸阪神タイガース球場」があり、阪神のキャンプ地でもあり、私たちの宿も阪神二軍の宿でした。若い二軍の選手の集団となると食欲は無論のこと相当賑やかであったと想像させます。この時期、NHKの月曜日に放映される「鶴瓶の家族に乾杯」の番組がこの頃でした。二月に現地取材があったそうです。元阪神の選手であった「川藤幸三さん」が鶴瓶さんの相手役という番組でした。

このような静かな町も「龍馬伝」の影響は大きく安芸市では「岩崎弥太郎こころざし社中」として「龍馬に憧れ、龍馬を憎み、龍馬を愛した男」と題しての展示テーマが「志」として早朝8時30分から催されています。室内には「大河ドラマ情報コーナー」「立志伝の聖地安芸コーナー」「龍馬シアター」に加え物販コーナーは盛りだくさんでした。

また、マスコミの参加も大きい。地元高知新聞も大々的に「岩崎弥太郎と三菱グループの140年」と題し特集号を発行しています。



岩崎弥太郎のPRと今日の三菱グループの発展ぶりを紹介しています。「三菱グループの創業者として風雲児・岩崎弥太郎の生涯と志」がテーマです。この特集号を編集された方は「成田誠一さん(三菱史アナリスト)」です。特集号だけに岩崎弥太郎のことは無論のこと歴代の社長についても分かりやすく解説されていますので要約しますと

- 「岩崎弥之助・二代目社長」：冷徹な判断力で多角経営へ
- 「岩崎久弥・三代目社長」：近代的な組織に向けて確かな歩み
- 「岩崎小弥太・四代目社長」：現在につながる分社化そして解散

これらの紹介の中にも「東洋文庫」のことや、先般、交流会で訪問した「静嘉堂」のことなどもあります。今回の特集号を拝見するに、「岩崎寛弥さん」からは、あまり詳しく聞き及んでおりませんが、ご存命であれば歴史の真髓をお聞きしたかったところです。

また、この特集号には三菱各社のコマーシャルも多く掲載されていますが、目立つ記事として「坂本龍馬とキリンビール」と題し「幕末、坂本龍馬によりイギリス人グラバーと三菱の創始者である高知県安芸市出身の岩崎弥太郎が出会いました。グラバーはその後、キリンビールの前身会社であるジャパンプルワリーの重役となり、岩崎弥太郎の弟・弥之助は出資者となりました。」つまり高知県とキリンビールは深い繋がりが有りますという記事です。

最後に「岩崎弥太郎生家」訪問の私の気持ちを持ち上げた情報として身近な「みつびしマンスリー」12月号に掲載された「龍馬と弥太郎（NHK大河ドラマ龍馬伝）」です。弥太郎役を演じる「香川照之」と脚本家の「福田靖」の対談記事も大きく影響しました。また、2月号には「最近どうも岩崎弥太郎が気になる」などの記事を見るにつれ、なにがなんでも岩崎弥太郎生家に行く気になった。

なお、このエッセーを書き終えたころ、嬉しい報道がありました。私たち夫婦が訪れた「岩崎弥太郎の生家」が登録有形文化財として文化審議会から川端達夫文部科学相に登録を答申しました。これもなにかの縁でしょうか。

2010年（平成22年）

以上

ダイヤかながわ交流会新加入のご挨拶

松下 恵造（硝子）



先月64歳になりました。メンバーの多くの方々と同じように、私も定年の60歳までフルに走ってきましたが、退職後に必ず実行しようと考えていたことは、夫婦で出掛ける「海外旅行」です。私を支えてきてくれた女房への感謝（お詫び?）と自分の旅心（=歴史と人と大自然とのふれあい）を満足させるためです。

退職後に訪れた国は、一昨年にイタリア（9日間の旅）、昨年にドイツ～スイス（10日間の旅）の3カ国です。今後の計画では、私はエジプトや中南米方面へも行きたいと考えていますが、女房の方は「後進国？はインフラ、治安が悪いので嫌」と先入観を持っており、どう説得するかが今後の課題です。さらに地中海やカリブ海のクルーズも夢ですが、女房は「同じ船内で何日間もどうするの？」と男のロマンを壊してしまいます。こちらの説得はさらにハードルが高いかも知れません。

さらに、30歳前後と45歳前後に赴任していた米国・シリコンバレーにも、出来れば当時同じ釜の飯を食って奮戦した仲間達（先輩や同僚）夫婦と一緒に出かけ、懐かしい風景と変化の様子を見ることも是非実現したい夢です。皆が元気な内に・・・。

最後になりましたが、私は森さんからのお誘いにより当会への入会の機会を得ました。親睦と社会貢献に対して少しでもお役に立てるよう努めたいと思いますので宜しくお願いします。

部会だより

<歩こう会> (鳥居)

3月24日に予定の43回歩こう会(東戸塚界隈)は生憎の雨天で中止、秋に改めて企画します。(これからはコースに藪蚊のリスクあり。)

‘龍馬と三浦半島’。大河ドラマ「龍馬伝」に因んで、坂本龍馬ゆかりの京急沿線を歩いてみようかと計画中です。ヴェルニー公園(汐入駅：スチームハンマー等の技術)、お龍の墓(京急大津駅：龍馬とお龍の木像座像)、愛宕山公園(浦賀駅：咸臨丸 出航記念碑)その他を巡って久里浜まで行きます。日取りは6月中旬又は下旬を想定しています。



<社会見学の会> (丸山)

春の見学会を多数の方々(43名)の参加を戴いて、次の通り行います。

日時：5月19日(火) 12:50 ~ 16:30

場所：丸の内地区

- (1) 丸の内都市計画及び熱供給プラントについて
新丸ビルと丸の内パークビルでの説明と見学
- (2) 美術鑑賞
新規オープンした三菱一号館美術館で「マネとモダン・パリ」展を鑑賞します。

なお、秋の見学会の詳細は未定ですが固まり次第、ご案内いたします。

<かながわ子ども教室> (藤井)

◎当教室の21年度の年間教室回数は、132回で参加講師・サポーター数は847名でした。その他フェスティバルの年間参加回数は6回で、参加者数90名でした。これまでの最高回数と参加者数でした。ご苦労様でした。

これを受けて、平成22年度の年間教室回数は140回を目途とし、併せて月間の教室回数も限度15回を目安とすることとなりました。(原則として)

◎教室開催の基盤となる助成金について、平成22年度は(財)日本財団の助成が確定していますが、これまで支援いただいていた長寿社会開発センターからは助成中止となり、これを引き継ぐ形で(独)福祉医療機構への助成金申請を検討中です。しかし同法人も目下の事業仕分対象となっており、この作業が終息してからの交渉となります。

<同好会>

ゴルフ（繁本）

春のゴルフ会を、5月12日（水）に長竹CCにて、2組＝8人で行いました。前日の雨天で決行できるか心配しましたが、当日は雷雨により、スタートが1時間遅れなどありましたが、午後はすっかり好天になり、和気藹藹のうちにプレーしました。これは皆さんの普段の心掛けが良いからだと感謝しています。

秋のゴルフ会は、湘南CCで行う事を決めました。追ってご案内します。

旅行（白幡）

現在検討中です。皆様のご希望がございましたらお申し出下さい。

ダイヤかながわサロン（望月）

第11回サロンを4月5日、桜木町のみなと倶楽部で実施しました。17名の参加がありました。次回は、7月か8月に行なう予定です。



麻雀（白幡）

7月1日（木）14時から大船パピヨンで開催します。前回から3卓となりました。

観劇・鑑賞会（大竹、藤井）

5月29日（土）にオペラ映画「ドン・ジョバンニ」（イギリスのロイヤル・オペラ・ハウス上演）を鑑賞いたします。鑑賞希望者は12人で、前売り券を手配済みです。（川崎駅西口109シネマズ川崎）上映時間等詳細は追って連絡します。

<<編集後記>>

岡田代表、2年間本当にお疲れ様でした。ニュースの編集は8回でしたが、ほとんどお任せ頂き気楽にやることができました。有難うございました。これからもご指導のほどお願いします。

今回は新谷前代表から「岩崎弥太郎生家訪問記」という、時期にぴったりのご寄稿を頂きました。同じ職場で岩崎寛弥さんと接点があっただけに、多くの資料をすばやく集め、フットワークも軽く生家訪問を実行されたことに感服しました。

（綿引 栄治）